

Q001

TRAVEL-0401

運送約款の役割 / 4択 / 基礎

運送約款の役割に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 運送人と旅客との運送契約の条件を定める。
2. 旅行業者の登録区分だけを定める。
3. 旅券の発給条件を定める。
4. ホテルの建築基準を定める。

答え・解説

正答：1. 運送人と旅客との運送契約の条件を定める。

解説：運送約款の役割では「運送人と旅客との運送契約の条件を定める。」が基本です。

要点：運送約款の役割

Q002

TRAVEL-0402

宿泊約款の役割 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、宿泊約款の役割で正しい理解はどれか。

1. 航空券の運賃計算だけを定める。
2. 旅程保証の変更補償金だけを定める。
3. 旅行業登録の有効期間を定める。
4. 宿泊施設と宿泊客との宿泊契約の条件を定める。

答え・解説

正答：4. 宿泊施設と宿泊客との宿泊契約の条件を定める。

解説：宿泊約款の役割では「宿泊施設と宿泊客との宿泊契約の条件を定める。」が基本です。

要点：宿泊約款の役割

Q003

TRAVEL-0403

JR乗車券 / 4択 / 標準

JR乗車券に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 特急列車に乗るための追加料金券だけを指す。
2. 指定席を利用するには、対象列車・区間・座席等が指定された券が必要となる。
3. 鉄道などでは小児運賃・料金が大人の半額相当となる扱いが基本である。
4. 旅客が区間に応じて鉄道を利用するための基本的な券である。

答え・解説

正答：1. 特急列車に乗るための追加料金券だけを指す。

解説：誤りは「特急列車に乗るための追加料金券だけを指す。」。JR乗車券では「旅客が区間に応じて鉄道を利用するための基本的な券である。」が基本です。

要点：JR乗車券

Q004

TRAVEL-0404

特急券 / 4択 / 応用

次の事例で、特急券の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 特急列車等の速達サービス・設備利用に対する料金券である。
2. 宿泊税を納める券である。
3. 海外旅行保険の証券である。
4. 普通列車の基本運賃だけを示す。

答え・解説

正答：1. 特急列車等の速達サービス・設備利用に対する料金券である。

解説：特急券では「特急列車等の速達サービス・設備利用に対する料金券である。」が基本です。

要点：特急券

Q005

TRAVEL-0405

座席指定 / 4択 / 基礎

座席指定に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 指定席を利用するには、対象列車・区間・座席等が指定された券が必要となる。
2. 指定席券があれば乗車券は常に不要である。
3. 自由席では座席番号が必ず指定される。
4. 指定席は宿泊予約と同じ制度である。

答え・解説

正答：1. 指定席を利用するには、対象列車・区間・座席等が指定された券が必要となる。

解説：座席指定では「指定席を利用するには、対象列車・区間・座席等が指定された券が必要となる。」が基本です。

要点：座席指定

Q006

TRAVEL-0406

小児運賃 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、小児運賃で正しい理解はどれか。

1. 小児運賃は海外旅行にしか存在しない。
2. 小児運賃は大人の2倍である。
3. 小児は常に無料である。
4. 鉄道などでは小児運賃・料金が大人の半額相当となる扱いが基本である。

答え・解説

正答：4. 鉄道などでは小児運賃・料金が大人の半額相当となる扱いが基本である。

解説：小児運賃では「鉄道などでは小児運賃・料金が大人の半額相当となる扱いが基本である。」が基本です。

要点：小児運賃

Q007

TRAVEL-0407

航空券の名義 / 4択 / 標準

航空券の名義に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 航空券は無記名で自由に譲渡できる。
2. 航空券は旅客名義で発券され、原則として他人へ譲渡できない。
3. 航空機や鉄道では安全上、危険物の持込みに制限がある。
4. 運送機関ごとに無料手荷物許容量や持込制限が定められる。

答え・解説

正答：1. 航空券は無記名で自由に譲渡できる。

解説：誤りは「航空券は無記名で自由に譲渡できる。」。航空券の名義では「航空券は旅客名義で発券され、原則として他人へ譲渡できない。」が基本です。

要点：航空券の名義

Q008

TRAVEL-0408

国内航空運送約款 / 4択 / 応用

次の事例で、国内航空運送約款の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 旅行業者の営業保証金額だけを定める。
2. 旅券の申請書式を定める。
3. 航空会社と旅客との国内航空運送契約の基本条件を定める。
4. ホテルの宿泊料金を定める。

答え・解説

正答：3. 航空会社と旅客との国内航空運送契約の基本条件を定める。

解説：国内航空運送約款では「航空会社と旅客との国内航空運送契約の基本条件を定める。」が基本です。

要点：国内航空運送約款

Q009

TRAVEL-0409

手荷物 / 4択 / 基礎

手荷物に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 手荷物はどの交通機関でも無制限に持ち込める。
2. 危険物でも旅客が希望すれば必ず持ち込める。
3. 手荷物規定は旅行業法上存在しない。
4. 運送機関ごとに無料手荷物許容量や持込制限が定められる。

答え・解説

正答：4. 運送機関ごとに無料手荷物許容量や持込制限が定められる。

解説：手荷物では「運送機関ごとに無料手荷物許容量や持込制限が定められる。」が基本です。

要点：手荷物

Q010

TRAVEL-0410

危険物の持込み / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、危険物の持込みで正しい理解はどれか。

1. 危険物制限は宿泊約款だけの問題である。
2. 国内旅行では危険物規制はない。
3. 危険物は旅行者の自己責任で自由に持ち込める。
4. 航空機や鉄道では安全上、危険物の持込みに制限がある。

答え・解説

正答：4. 航空機や鉄道では安全上、危険物の持込みに制限がある。

解説：危険物の持込みでは「航空機や鉄道では安全上、危険物の持込みに制限がある。」が基本です。

要点：危険物の持込み

Q011

TRAVEL-0411

運送機関の遅延 / 4択 / 標準

運送機関の遅延に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 遅延・欠航時の取扱いは、各運送約款や運送機関の案内に従って確認する。
2. 宿泊施設では予約内容・本人確認・到着時刻などの確認が重要となる。
3. 遅延時は旅行者が常に全損害を無条件補償する。
4. 宿泊契約を解除する場合、約款・宿泊プランに従い取消料が発生することがある。

答え・解説

正答：3. 遅延時は旅行者が常に全損害を無条件補償する。

解説：誤りは「遅延時は旅行者が常に全損害を無条件補償する。」。運送機関の遅延では「遅延・欠航時の取扱いは、各運送約款や運送機関の案内に従って確認する。」が基本です。

要点：運送機関の遅延

Q012

TRAVEL-0412

宿泊契約の成立 / 4択 / 応用

次の事例で、宿泊契約の成立の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 旅行者がパンフレットを見ただけで成立する。
2. 宿泊施設が申込みを承諾したときに宿泊契約が成立する扱いが基本である。
3. 航空会社が承諾したときに必ず成立する。
4. 宿泊後に初めて成立する。

答え・解説

正答：2. 宿泊施設が申込みを承諾したときに宿泊契約が成立する扱いが基本である。

解説：宿泊契約の成立では「宿泊施設が申込みを承諾したときに宿泊契約が成立する扱いが基本である。」が基本です。

要点：宿泊契約の成立

Q013

TRAVEL-0413

宿泊の取消料 / 4択 / 基礎

宿泊の取消料に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 宿泊契約を解除する場合、約款・宿泊プランに従い取消料が発生することがある。
2. 宿泊取消料は旅券発給手数料である。
3. 宿泊取消料は常に発生しない。
4. 取消料は旅行者が自由に決める。

答え・解説

正答：1. 宿泊契約を解除する場合、約款・宿泊プランに従い取消料が発生することがある。

解説：宿泊の取消料では「宿泊契約を解除する場合、約款・宿泊プランに従い取消料が発生することがある。」が基本です。

要点：宿泊の取消料

Q014

TRAVEL-0414

チェックイン / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、チェックインで正しい理解はどれか。

1. チェックイン後は約款が適用されない。
2. 宿泊施設では到着確認が一切不要である。
3. チェックインは航空機の搭乗手続だけを意味する。
4. 宿泊施設では予約内容・本人確認・到着時刻などの確認が重要となる。

答え・解説

正答：4. 宿泊施設では予約内容・本人確認・到着時刻などの確認が重要となる。

解説：チェックインでは「宿泊施設では予約内容・本人確認・到着時刻などの確認が重要となる。」が基本です。

要点：チェックイン

Q015

TRAVEL-0415

宿泊施設の利用規則 / 4択 / 標準

宿泊施設の利用規則に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 宿泊客は施設の利用規則や安全上の指示に従う必要がある。
2. 旅客が区間に応じて鉄道を利用するための基本的な券である。
3. 宿泊客は施設の利用規則に従う必要がない。
4. 宿泊施設と宿泊客との宿泊契約の条件を定める。

答え・解説

正答：3. 宿泊客は施設の利用規則に従う必要がない。

解説：誤りは「宿泊客は施設の利用規則に従う必要がない。」。宿泊施設の利用規則では「宿泊客は施設の利用規則や安全上の指示に従う必要がある。」が基本です。

要点：宿泊施設の利用規則

Q016

TRAVEL-0416

運送約款の役割 / 4択 / 応用

次の事例で、運送約款の役割の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 運送人と旅客との運送契約の条件を定める。
2. ホテルの建築基準を定める。
3. 旅券の発給条件を定める。
4. 旅行業者の登録区分だけを定める。

答え・解説

正答：1. 運送人と旅客との運送契約の条件を定める。

解説：運送約款の役割では「運送人と旅客との運送契約の条件を定める。」が基本です。

要点：運送約款の役割

Q017

TRAVEL-0417

宿泊約款の役割 / 4択 / 基礎

宿泊約款の役割に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 旅行業登録の有効期間を定める。
2. 旅程保証の変更補償金だけを定める。
3. 宿泊施設と宿泊客との宿泊契約の条件を定める。
4. 航空券の運賃計算だけを定める。

答え・解説

正答：3. 宿泊施設と宿泊客との宿泊契約の条件を定める。

解説：宿泊約款の役割では「宿泊施設と宿泊客との宿泊契約の条件を定める。」が基本です。

要点：宿泊約款の役割

Q018

TRAVEL-0418

JR乗車券 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、JR乗車券で正しい理解はどれか。

1. 旅券の代替書類である。
2. 特急列車に乗るための追加料金券だけを指す。
3. 旅客が区間に応じて鉄道を利用するための基本的な券である。
4. 宿泊契約の証明書である。

答え・解説

正答：3. 旅客が区間に応じて鉄道を利用するための基本的な券である。

解説：JR乗車券では「旅客が区間に応じて鉄道を利用するための基本的な券である。」が基本です。

要点：JR乗車券

Q019

TRAVEL-0419

特急券 / 4択 / 標準

特急券に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 鉄道などでは小児運賃・料金が大人の半額相当となる扱いが基本である。
2. 普通列車の基本運賃だけを示す。
3. 航空券は旅客名義で発券され、原則として他人へ譲渡できない。
4. 特急列車等の速達サービス・設備利用に対する料金券である。

答え・解説

正答：2. 普通列車の基本運賃だけを示す。

解説：誤りは「普通列車の基本運賃だけを示す。」。特急券では「特急列車等の速達サービス・設備利用に対する料金券である。」が基本です。

要点：特急券

Q020

TRAVEL-0420

座席指定 / 4択 / 応用

次の事例で、座席指定の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 自由席では座席番号が必ず指定される。
2. 指定席は宿泊予約と同じ制度である。
3. 指定席を利用するには、対象列車・区間・座席等が指定された券が必要となる。
4. 指定席券があれば乗車券は常に不要である。

答え・解説

正答：3. 指定席を利用するには、対象列車・区間・座席等が指定された券が必要となる。

解説：座席指定では「指定席を利用するには、対象列車・区間・座席等が指定された券が必要となる。」が基本です。

要点：座席指定

Q021

TRAVEL-0421

小児運賃 / 4択 / 基礎

小児運賃に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 鉄道などでは小児運賃・料金が大人の半額相当となる扱いが基本である。
2. 小児は常に無料である。
3. 小児運賃は海外旅行にしか存在しない。
4. 小児運賃は大人の2倍である。

答え・解説

正答：1. 鉄道などでは小児運賃・料金が大人の半額相当となる扱いが基本である。

解説：小児運賃では「鉄道などでは小児運賃・料金が大人の半額相当となる扱いが基本である。」が基本です。

要点：小児運賃

Q022

TRAVEL-0422

航空券の名義 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、航空券の名義で正しい理解はどれか。

1. 航空券は旅行者の名義だけで発券する。
2. 航空券は旅客名義で発券され、原則として他人へ譲渡できない。
3. 航空券は無記名で自由に譲渡できる。
4. 航空券の氏名は宿泊施設が自由に変更できる。

答え・解説

正答：2. 航空券は旅客名義で発券され、原則として他人へ譲渡できない。

解説：航空券の名義では「航空券は旅客名義で発券され、原則として他人へ譲渡できない。」が基本です。

要点：航空券の名義

Q023

TRAVEL-0423

国内航空運送約款 / 4択 / 標準

国内航空運送約款に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 航空機や鉄道では安全上、危険物の持込みに制限がある。
2. 遅延・欠航時の取扱いは、各運送約款や運送機関の案内に従って確認する。
3. 旅券の申請書式を定める。
4. 航空会社と旅客との国内航空運送契約の基本条件を定める。

答え・解説

正答：3. 旅券の申請書式を定める。

解説：誤りは「旅券の申請書式を定める。」。国内航空運送約款では「航空会社と旅客との国内航空運送契約の基本条件を定める。」が基本です。

要点：国内航空運送約款

Q024

TRAVEL-0424

手荷物 / 4択 / 応用

次の事例で、手荷物の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 手荷物はどの交通機関でも無制限に持ち込める。
2. 危険物でも旅客が希望すれば必ず持ち込める。
3. 手荷物規定は旅行業法上存在しない。
4. 運送機関ごとに無料手荷物許容量や持込制限が定められる。

答え・解説

正答：4. 運送機関ごとに無料手荷物許容量や持込制限が定められる。

解説：手荷物では「運送機関ごとに無料手荷物許容量や持込制限が定められる。」が基本です。

要点：手荷物

Q025

TRAVEL-0425

危険物の持込み / 4択 / 基礎

危険物の持込みに関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 危険物は旅行者の自己責任で自由に持ち込める。
2. 国内旅行では危険物規制はない。
3. 危険物制限は宿泊約款だけの問題である。
4. 航空機や鉄道では安全上、危険物の持込みに制限がある。

答え・解説

正答：4. 航空機や鉄道では安全上、危険物の持込みに制限がある。

解説：危険物の持込みでは「航空機や鉄道では安全上、危険物の持込みに制限がある。」が基本です。

要点：危険物の持込み

Q026

TRAVEL-0426

運送機関の遅延 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、運送機関の遅延で正しい理解はどれか。

1. 遅延・欠航時の取扱いは、各運送約款や運送機関の案内に従って確認する。
2. 遅延時の取扱いは旅行者が自作できる。
3. 遅延時は旅行業者が常に全損害を無条件補償する。
4. 遅延は約款では一切扱われない。

答え・解説

正答：1. 遅延・欠航時の取扱いは、各運送約款や運送機関の案内に従って確認する。

解説：運送機関の遅延では「遅延・欠航時の取扱いは、各運送約款や運送機関の案内に従って確認する。」が基本です。

要点：運送機関の遅延

Q027

TRAVEL-0427

宿泊契約の成立 / 4択 / 標準

宿泊契約の成立に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 宿泊客は施設の利用規則や安全上の指示に従う必要がある。
2. 宿泊施設が申込みを承諾したときに宿泊契約が成立する扱いが基本である。
3. 旅行者がパンフレットを見ただけで成立する。
4. 宿泊施設では予約内容・本人確認・到着時刻などの確認が重要となる。

答え・解説

正答：3. 旅行者がパンフレットを見ただけで成立する。

解説：誤りは「旅行者がパンフレットを見ただけで成立する。」。宿泊契約の成立では「宿泊施設が申込みを承諾したときに宿泊契約が成立する扱いが基本である。」が基本です。

要点：宿泊契約の成立

Q028

TRAVEL-0428

宿泊の取消料 / 4択 / 応用

次の事例で、宿泊の取消料の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 宿泊契約を解除する場合、約款・宿泊プランに従い取消料が発生することがある。
2. 宿泊取消料は常に発生しない。
3. 取消料は旅行者が自由に決める。
4. 宿泊取消料は旅券発給手数料である。

答え・解説

正答：1. 宿泊契約を解除する場合、約款・宿泊プランに従い取消料が発生することがある。

解説：宿泊の取消料では「宿泊契約を解除する場合、約款・宿泊プランに従い取消料が発生することがある。」が基本です。

要点：宿泊の取消料

Q029

TRAVEL-0429

チェックイン / 4択 / 基礎

チェックインに関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. チェックインは航空機の搭乗手続だけを意味する。
2. 宿泊施設では到着確認が一切不要である。
3. チェックイン後は約款が適用されない。
4. 宿泊施設では予約内容・本人確認・到着時刻などの確認が重要となる。

答え・解説

正答：4. 宿泊施設では予約内容・本人確認・到着時刻などの確認が重要となる。

解説：チェックインでは「宿泊施設では予約内容・本人確認・到着時刻などの確認が重要となる。」が基本です。

要点：チェックイン

Q030

TRAVEL-0430

宿泊施設の利用規則 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、宿泊施設の利用規則で正しい理解はどれか。

1. 旅行者が独自に規則を変更できる。
2. 宿泊客は施設の利用規則や安全上の指示に従う必要がある。
3. 利用規則は従業員だけに適用される。
4. 宿泊客は施設の規則に従う必要がない。

答え・解説

正答：2. 宿泊客は施設の利用規則や安全上の指示に従う必要がある。

解説：宿泊施設の利用規則では「宿泊客は施設の利用規則や安全上の指示に従う必要がある。」が基本です。

要点：宿泊施設の利用規則

Q031

TRAVEL-0431

運送約款の役割 / 4択 / 標準

運送約款の役割に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 特急列車等の速達サービス・設備利用に対する料金券である。
2. 旅客が区間に応じて鉄道を利用するための基本的な券である。
3. 運送人と旅客との運送契約の条件を定める。
4. 旅行業者の登録区分だけを定める。

答え・解説

正答：4. 旅行業者の登録区分だけを定める。

解説：誤りは「旅行業者の登録区分だけを定める。」。運送約款の役割では「運送人と旅客との運送契約の条件を定める。」が基本です。

要点：運送約款の役割

Q032

TRAVEL-0432

宿泊約款の役割 / 4択 / 応用

次の事例で、宿泊約款の役割の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 宿泊施設と宿泊客との宿泊契約の条件を定める。
2. 旅行業登録の有効期間を定める。
3. 航空券の運賃計算だけを定める。
4. 旅程保証の変更補償金を定める。

答え・解説

正答：1. 宿泊施設と宿泊客との宿泊契約の条件を定める。

解説：宿泊約款の役割では「宿泊施設と宿泊客との宿泊契約の条件を定める。」が基本です。

要点：宿泊約款の役割

Q033

TRAVEL-0433

JR乗車券 / 4択 / 基礎

JR乗車券に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 宿泊契約の証明書である。
2. 旅客が区間に応じて鉄道を利用するための基本的な券である。
3. 特急列車に乗るための追加料金券だけを指す。
4. 旅券の代替書類である。

答え・解説

正答：2. 旅客が区間に応じて鉄道を利用するための基本的な券である。

解説：JR乗車券では「旅客が区間に応じて鉄道を利用するための基本的な券である。」が基本です。

要点：JR乗車券

Q034

TRAVEL-0434

特急券 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、特急券で正しい理解はどれか。

1. 海外旅行保険の証券である。
2. 宿泊税を納める券である。
3. 普通列車の基本運賃だけを示す。
4. 特急列車等の速達サービス・設備利用に対する料金券である。

答え・解説

正答：4. 特急列車等の速達サービス・設備利用に対する料金券である。

解説：特急券では「特急列車等の速達サービス・設備利用に対する料金券である。」が基本です。

要点：特急券

Q035

TRAVEL-0435

座席指定 / 4択 / 標準

座席指定に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 航空会社と旅客との国内航空運送契約の基本条件を定める。
2. 航空券は旅客名義で発券され、原則として他人へ譲渡できない。
3. 指定席を利用するには、対象列車・区間・座席等が指定された券が必要となる。
4. 自由席では座席番号が必ず指定される。

答え・解説

正答：4. 自由席では座席番号が必ず指定される。

解説：誤りは「自由席では座席番号が必ず指定される。」。座席指定では「指定席を利用するには、対象列車・区間・座席等が指定された券が必要となる。」が基本です。

要点：座席指定

Q036

TRAVEL-0436

小児運賃 / 4択 / 応用

次の事例で、小児運賃の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 小児は常に無料である。
2. 小児運賃は海外旅行にしか存在しない。
3. 鉄道などでは小児運賃・料金が大人の半額相当となる扱いが基本である。
4. 小児運賃は大人の2倍である。

答え・解説

正答：3. 鉄道などでは小児運賃・料金が大人の半額相当となる扱いが基本である。

解説：小児運賃では「鉄道などでは小児運賃・料金が大人の半額相当となる扱いが基本である。」が基本です。

要点：小児運賃

Q037

TRAVEL-0437

航空券の名義 / 4択 / 基礎

航空券の名義に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 航空券は無記名で自由に譲渡できる。
2. 航空券は旅客名義で発券され、原則として他人へ譲渡できない。
3. 航空券の氏名は宿泊施設が自由に変更できる。
4. 航空券は旅行者の名義だけで発券する。

答え・解説

正答：2. 航空券は旅客名義で発券され、原則として他人へ譲渡できない。

解説：航空券の名義では「航空券は旅客名義で発券され、原則として他人へ譲渡できない。」が基本です。

要点：航空券の名義

Q038

TRAVEL-0438

国内航空運送約款 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、国内航空運送約款で正しい理解はどれか。

1. ホテルの宿泊料金を定める。
2. 旅券の申請書式を定める。
3. 旅行者の営業保証金額だけを定める。
4. 航空会社と旅客との国内航空運送契約の基本条件を定める。

答え・解説

正答：4. 航空会社と旅客との国内航空運送契約の基本条件を定める。

解説：国内航空運送約款では「航空会社と旅客との国内航空運送契約の基本条件を定める。」が基本です。

要点：国内航空運送約款

Q039

TRAVEL-0439

手荷物 / 4択 / 標準

手荷物に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 遅延・欠航時の取扱いは、各運送約款や運送機関の案内に従って確認する。
2. 宿泊施設が申込みを承諾したときに宿泊契約が成立する扱いが基本である。
3. 手荷物はどの交通機関でも無制限に持ち込める。
4. 運送機関ごとに無料手荷物許容量や持込制限が定められる。

答え・解説

正答：3. 手荷物はどの交通機関でも無制限に持ち込める。

解説：誤りは「手荷物はどの交通機関でも無制限に持ち込める。」。手荷物では「運送機関ごとに無料手荷物許容量や持込制限が定められる。」が基本です。

要点：手荷物

Q040

TRAVEL-0440

危険物の持込み / 4択 / 応用

次の事例で、危険物の持込みの観点から最も適切な対応はどれか。

1. 国内旅行では危険物規制はない。
2. 航空機や鉄道では安全上、危険物の持込みに制限がある。
3. 危険物は旅行者の自己責任で自由に持ち込める。
4. 危険物制限は宿泊約款だけの問題である。

答え・解説

正答：2. 航空機や鉄道では安全上、危険物の持込みに制限がある。

解説：危険物の持込みでは「航空機や鉄道では安全上、危険物の持込みに制限がある。」が基本です。

要点：危険物の持込み

Q041

TRAVEL-0441

運送機関の遅延 / 4択 / 基礎

運送機関の遅延に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 遅延は約款では一切扱われない。
2. 遅延時の取扱いは旅行者が自作できる。
3. 遅延時は旅行者が常に全損害を無条件補償する。
4. 遅延・欠航時の取扱いは、各運送約款や運送機関の案内に従って確認する。

答え・解説

正答：4. 遅延・欠航時の取扱いは、各運送約款や運送機関の案内に従って確認する。

解説：運送機関の遅延では「遅延・欠航時の取扱いは、各運送約款や運送機関の案内に従って確認する。」が基本です。

要点：運送機関の遅延

Q042

TRAVEL-0442

宿泊契約の成立 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、宿泊契約の成立で正しい理解はどれか。

1. 宿泊後に初めて成立する。
2. 航空会社が承諾したときに必ず成立する。
3. 宿泊施設が申込みを承諾したときに宿泊契約が成立する扱いが基本である。
4. 旅行者がパンフレットを見ただけで成立する。

答え・解説

正答：3. 宿泊施設が申込みを承諾したときに宿泊契約が成立する扱いが基本である。

解説：宿泊契約の成立では「宿泊施設が申込みを承諾したときに宿泊契約が成立する扱いが基本である。」が基本です。

要点：宿泊契約の成立

Q043

TRAVEL-0443

宿泊の取消料 / 4択 / 標準

宿泊の取消料に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 宿泊取消料は常に発生しない。
2. 運送人と旅客との運送契約の条件を定める。
3. 宿泊客は施設の利用規則や安全上の指示に従う必要がある。
4. 宿泊契約を解除する場合、約款・宿泊プランに従い取消料が発生することがある。

答え・解説

正答：1. 宿泊取消料は常に発生しない。

解説：誤りは「宿泊取消料は常に発生しない。」。宿泊の取消料では「宿泊契約を解除する場合、約款・宿泊プランに従い取消料が発生することがある。」が基本です。

要点：宿泊の取消料

Q044

TRAVEL-0444

チェックイン / 4択 / 応用

次の事例で、チェックインの観点から最も適切な対応はどれか。

1. 宿泊施設では到着確認が一切不要である。
2. チェックイン後は約款が適用されない。
3. チェックインは航空機の搭乗手続だけを意味する。
4. 宿泊施設では予約内容・本人確認・到着時刻などの確認が重要となる。

答え・解説

正答：4. 宿泊施設では予約内容・本人確認・到着時刻などの確認が重要となる。

解説：チェックインでは「宿泊施設では予約内容・本人確認・到着時刻などの確認が重要となる。」が基本です。

要点：チェックイン

Q045

TRAVEL-0445

宿泊施設の利用規則 / 4択 / 基礎

宿泊施設の利用規則に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 利用規則は従業員だけに適用される。
2. 宿泊客は施設の規則に従う必要がない。
3. 宿泊客は施設の利用規則や安全上の指示に従う必要がある。
4. 旅行者が独自に規則を変更できる。

答え・解説

正答：3. 宿泊客は施設の利用規則や安全上の指示に従う必要がある。

解説：宿泊施設の利用規則では「宿泊客は施設の利用規則や安全上の指示に従う必要がある。」が基本です。

要点：宿泊施設の利用規則

Q046

TRAVEL-0446

運送約款の役割 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、運送約款の役割で正しい理解はどれか。

1. ホテルの建築基準を定める。
2. 旅券の発給条件を定める。
3. 旅行業者の登録区分だけを定める。
4. 運送人と旅客との運送契約の条件を定める。

答え・解説

正答：4. 運送人と旅客との運送契約の条件を定める。

解説：運送約款の役割では「運送人と旅客との運送契約の条件を定める。」が基本です。

要点：運送約款の役割

Q047

TRAVEL-0447

宿泊約款の役割 / 4択 / 標準

宿泊約款の役割に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 航空券の運賃計算だけを定める。
2. 宿泊施設と宿泊客との宿泊契約の条件を定める。
3. 特急列車等の速達サービス・設備利用に対する料金券である。
4. 指定席を利用するには、対象列車・区間・座席等が指定された券が必要となる。

答え・解説

正答：1. 航空券の運賃計算だけを定める。

解説：誤りは「航空券の運賃計算だけを定める。」。宿泊約款の役割では「宿泊施設と宿泊客との宿泊契約の条件を定める。」が基本です。

要点：宿泊約款の役割

Q048

TRAVEL-0448

JR乗車券 / 4択 / 応用

次の事例で、JR乗車券の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 旅券の代替書類である。
2. 特急列車に乗るための追加料金券だけを指す。
3. 旅客が区間に応じて鉄道を利用するための基本的な券である。
4. 宿泊契約の証明書である。

答え・解説

正答：3. 旅客が区間に応じて鉄道を利用するための基本的な券である。

解説：JR乗車券では「旅客が区間に応じて鉄道を利用するための基本的な券である。」が基本です。

要点：JR乗車券

Q049

TRAVEL-0449

特急券 / 4択 / 基礎

特急券に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 宿泊税を納める券である。
2. 海外旅行保険の証券である。
3. 普通列車の基本運賃だけを示す。
4. 特急列車等の速達サービス・設備利用に対する料金券である。

答え・解説

正答：4. 特急列車等の速達サービス・設備利用に対する料金券である。

解説：特急券では「特急列車等の速達サービス・設備利用に対する料金券である。」が基本です。

要点：特急券

Q050

TRAVEL-0450

座席指定 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、座席指定で正しい理解はどれか。

1. 指定席を利用するには、対象列車・区間・座席等が指定された券が必要となる。
2. 自由席では座席番号が必ず指定される。
3. 指定席券があれば乗車券は常に不要である。
4. 指定席は宿泊予約と同じ制度である。

答え・解説

正答：1. 指定席を利用するには、対象列車・区間・座席等が指定された券が必要となる。

解説：座席指定では「指定席を利用するには、対象列車・区間・座席等が指定された券が必要となる。」が基本です。

要点：座席指定

Q051

TRAVEL-0451

小児運賃 / 4択 / 標準

小児運賃に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 航空会社と旅客との国内航空運送契約の基本条件を定める。
2. 運送機関ごとに無料手荷物許容量や持込制限が定められる。
3. 鉄道などでは小児運賃・料金が大人の半額相当となる扱いが基本である。
4. 小児は常に無料である。

答え・解説

正答：4. 小児は常に無料である。

解説：誤りは「小児は常に無料である。」。小児運賃では「鉄道などでは小児運賃・料金が大人の半額相当となる扱いが基本である。」が基本です。

要点：小児運賃

Q052

TRAVEL-0452

航空券の名義 / 4択 / 応用

次の事例で、航空券の名義の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 航空券は旅客名義で発券され、原則として他人へ譲渡できない。
2. 航空券の氏名は宿泊施設が自由に変更できる。
3. 航空券は旅行者の名義だけで発券する。
4. 航空券は無記名で自由に譲渡できる。

答え・解説

正答：1. 航空券は旅客名義で発券され、原則として他人へ譲渡できない。

解説：航空券の名義では「航空券は旅客名義で発券され、原則として他人へ譲渡できない。」が基本です。

要点：航空券の名義

Q053

TRAVEL-0453

国内航空運送約款 / 4択 / 基礎

国内航空運送約款に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 旅行者の営業保証金額だけを定める。
2. ホテルの宿泊料金を定める。
3. 旅券の申請書式を定める。
4. 航空会社と旅客との国内航空運送契約の基本条件を定める。

答え・解説

正答：4. 航空会社と旅客との国内航空運送契約の基本条件を定める。

解説：国内航空運送約款では「航空会社と旅客との国内航空運送契約の基本条件を定める。」が基本です。

要点：国内航空運送約款

Q054

TRAVEL-0454

手荷物 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、手荷物で正しい理解はどれか。

1. 手荷物規定は旅行業法上存在しない。
2. 手荷物はどの交通機関でも無制限に持ち込める。
3. 運送機関ごとに無料手荷物許容量や持込制限が定められる。
4. 危険物でも旅客が希望すれば必ず持ち込める。

答え・解説

正答：3. 運送機関ごとに無料手荷物許容量や持込制限が定められる。

解説：手荷物では「運送機関ごとに無料手荷物許容量や持込制限が定められる。」が基本です。

要点：手荷物

Q055

TRAVEL-0455

危険物の持込み / 4択 / 標準

危険物の持込みに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 宿泊契約を解除する場合、約款・宿泊プランに従い取消料が発生することがある。
2. 宿泊施設が申込みを承諾したときに宿泊契約が成立する扱いが基本である。
3. 危険物は旅行者の自己責任で自由に持ち込める。
4. 航空機や鉄道では安全上、危険物の持込みに制限がある。

答え・解説

正答：3. 危険物は旅行者の自己責任で自由に持ち込める。

解説：誤りは「危険物は旅行者の自己責任で自由に持ち込める。」。危険物の持込みでは「航空機や鉄道では安全上、危険物の持込みに制限がある。」が基本です。

要点：危険物の持込み

Q056

TRAVEL-0456

運送機関の遅延 / 4択 / 応用

次の事例で、運送機関の遅延の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 遅延・欠航時の取扱いは、各運送約款や運送機関の案内に従って確認する。
2. 遅延時の取扱いは旅行者が自作できる。
3. 遅延は約款では一切扱われない。
4. 遅延時は旅行業者が常に全損害を無条件補償する。

答え・解説

正答：1. 遅延・欠航時の取扱いは、各運送約款や運送機関の案内に従って確認する。

解説：運送機関の遅延では「遅延・欠航時の取扱いは、各運送約款や運送機関の案内に従って確認する。」が基本です。

要点：運送機関の遅延

Q057

TRAVEL-0457

宿泊契約の成立 / 4択 / 基礎

宿泊契約の成立に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 航空会社が承諾したときに必ず成立する。
2. 宿泊後に初めて成立する。
3. 宿泊施設が申込みを承諾したときに宿泊契約が成立する扱いが基本である。
4. 旅行者がパンフレットを見ただけで成立する。

答え・解説

正答：3. 宿泊施設が申込みを承諾したときに宿泊契約が成立する扱いが基本である。

解説：宿泊契約の成立では「宿泊施設が申込みを承諾したときに宿泊契約が成立する扱いが基本である。」が基本です。

要点：宿泊契約の成立

Q058

TRAVEL-0458

宿泊の取消料 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、宿泊の取消料で正しい理解はどれか。

1. 宿泊取消料は旅券発給手数料である。
2. 宿泊契約を解除する場合、約款・宿泊プランに従い取消料が発生することがある。
3. 取消料は旅行者が自由に決める。
4. 宿泊取消料は常に発生しない。

答え・解説

正答：2. 宿泊契約を解除する場合、約款・宿泊プランに従い取消料が発生することがある。

解説：宿泊の取消料では「宿泊契約を解除する場合、約款・宿泊プランに従い取消料が発生することがある。」が基本です。

要点：宿泊の取消料

Q059

TRAVEL-0459

チェックイン / 4択 / 標準

チェックインに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 宿泊施設と宿泊客との宿泊契約の条件を定める。
2. チェックインは航空機の搭乗手続だけを意味する。
3. 運送人と旅客との運送契約の条件を定める。
4. 宿泊施設では予約内容・本人確認・到着時刻などの確認が重要となる。

答え・解説

正答：2. チェックインは航空機の搭乗手続だけを意味する。

解説：誤りは「チェックインは航空機の搭乗手続だけを意味する。」。チェックインでは「宿泊施設では予約内容・本人確認・到着時刻などの確認が重要となる。」が基本です。

要点：チェックイン

Q060

TRAVEL-0460

宿泊施設の利用規則 / 4択 / 応用

次の事例で、宿泊施設の利用規則の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 利用規則は従業員だけに適用される。
2. 宿泊客は施設の規則に従う必要がない。
3. 旅行者が独自に規則を変更できる。
4. 宿泊客は施設の利用規則や安全上の指示に従う必要がある。

答え・解説

正答：4. 宿泊客は施設の利用規則や安全上の指示に従う必要がある。

解説：宿泊施設の利用規則では「宿泊客は施設の利用規則や安全上の指示に従う必要がある。」が基本です。

要点：宿泊施設の利用規則

Q061

TRAVEL-0461

運送約款の役割 / 4択 / 基礎

運送約款の役割に関する記述として、最も適切なものはどれか。（確認2）

1. 運送人と旅客との運送契約の条件を定める。
2. 旅行業者の登録区分だけを定める。
3. 旅券の発給条件を定める。
4. ホテルの建築基準を定める。

答え・解説

正答：1. 運送人と旅客との運送契約の条件を定める。

解説：運送約款の役割では「運送人と旅客との運送契約の条件を定める。」が基本です。

要点：運送約款の役割

Q062

TRAVEL-0462

宿泊約款の役割 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、宿泊約款の役割で正しい理解はどれか。

1. 宿泊施設と宿泊客との宿泊契約の条件を定める。
2. 航空券の運賃計算だけを定める。
3. 旅程保証の変更補償金を定める。
4. 旅行業登録の有効期間を定める。

答え・解説

正答：1. 宿泊施設と宿泊客との宿泊契約の条件を定める。

解説：宿泊約款の役割では「宿泊施設と宿泊客との宿泊契約の条件を定める。」が基本です。

要点：宿泊約款の役割

Q063

TRAVEL-0463

JR乗車券 / 4択 / 標準

JR乗車券に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 指定席を利用するには、対象列車・区間・座席等が指定された券が必要となる。
2. 特急列車に乗るための追加料金券だけを指す。
3. 鉄道などでは小児運賃・料金が大人の半額相当となる扱いが基本である。
4. 旅客が区間に応じて鉄道を利用するための基本的な券である。

答え・解説

正答：2. 特急列車に乗るための追加料金券だけを指す。

解説：誤りは「特急列車に乗るための追加料金券だけを指す。」。JR乗車券では「旅客が区間に応じて鉄道を利用するための基本的な券である。」が基本です。

要点：JR乗車券

Q064

TRAVEL-0464

特急券 / 4択 / 応用

次の事例で、特急券の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 特急列車等の速達サービス・設備利用に対する料金券である。
2. 宿泊税を納める券である。
3. 普通列車の基本運賃だけを示す。
4. 海外旅行保険の証券である。

答え・解説

正答：1. 特急列車等の速達サービス・設備利用に対する料金券である。

解説：特急券では「特急列車等の速達サービス・設備利用に対する料金券である。」が基本です。

要点：特急券

Q065

TRAVEL-0465

座席指定 / 4択 / 基礎

座席指定に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 自由席では座席番号が必ず指定される。
2. 指定席を利用するには、対象列車・区間・座席等が指定された券が必要となる。
3. 指定席は宿泊予約と同じ制度である。
4. 指定席券があれば乗車券は常に不要である。

答え・解説

正答：2. 指定席を利用するには、対象列車・区間・座席等が指定された券が必要となる。

解説：座席指定では「指定席を利用するには、対象列車・区間・座席等が指定された券が必要となる。」が基本です。

要点：座席指定

Q066

TRAVEL-0466

小児運賃 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、小児運賃で正しい理解はどれか。

1. 小児は常に無料である。
2. 鉄道などでは小児運賃・料金が大人の半額相当となる扱いが基本である。
3. 小児運賃は海外旅行にしか存在しない。
4. 小児運賃は大人の2倍である。

答え・解説

正答：2. 鉄道などでは小児運賃・料金が大人の半額相当となる扱いが基本である。

解説：小児運賃では「鉄道などでは小児運賃・料金が大人の半額相当となる扱いが基本である。」が基本です。

要点：小児運賃

Q067

TRAVEL-0467

航空券の名義 / 4択 / 標準

航空券の名義に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 航空券は無記名で自由に譲渡できる。
2. 航空機や鉄道では安全上、危険物の持込みに制限がある。
3. 航空券は旅客名義で発券され、原則として他人へ譲渡できない。
4. 運送機関ごとに無料手荷物許容量や持込制限が定められる。

答え・解説

正答：1. 航空券は無記名で自由に譲渡できる。

解説：誤りは「航空券は無記名で自由に譲渡できる。」。航空券の名義では「航空券は旅客名義で発券され、原則として他人へ譲渡できない。」が基本です。

要点：航空券の名義

Q068

TRAVEL-0468

国内航空運送約款 / 4択 / 応用

次の事例で、国内航空運送約款の観点から最も適切な対応はどれか。

1. ホテルの宿泊料金を定める。
2. 旅券の申請書式を定める。
3. 旅行業者の営業保証金額だけを定める。
4. 航空会社と旅客との国内航空運送契約の基本条件を定める。

答え・解説

正答：4. 航空会社と旅客との国内航空運送契約の基本条件を定める。

解説：国内航空運送約款では「航空会社と旅客との国内航空運送契約の基本条件を定める。」が基本です。

要点：国内航空運送約款

Q069

TRAVEL-0469

手荷物 / 4択 / 基礎

手荷物に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 手荷物はどの交通機関でも無制限に持ち込める。
2. 手荷物規定は旅行業法上存在しない。
3. 運送機関ごとに無料手荷物許容量や持込制限が定められる。
4. 危険物でも旅客が希望すれば必ず持ち込める。

答え・解説

正答：3. 運送機関ごとに無料手荷物許容量や持込制限が定められる。

解説：手荷物では「運送機関ごとに無料手荷物許容量や持込制限が定められる。」が基本です。

要点：手荷物

Q070

TRAVEL-0470

危険物の持込み / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、危険物の持込みで正しい理解はどれか。

1. 危険物制限は宿泊約款だけの問題である。
2. 航空機や鉄道では安全上、危険物の持込みに制限がある。
3. 危険物は旅行者の自己責任で自由に持ち込める。
4. 国内旅行では危険物規制はない。

答え・解説

正答：2. 航空機や鉄道では安全上、危険物の持込みに制限がある。

解説：危険物の持込みでは「航空機や鉄道では安全上、危険物の持込みに制限がある。」が基本です。

要点：危険物の持込み

Q071

TRAVEL-0471

運送機関の遅延 / 4択 / 標準

運送機関の遅延に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 遅延・欠航時の取扱いは、各運送約款や運送機関の案内に従って確認する。
2. 遅延時は旅行業者が常に全損害を無条件補償する。
3. 宿泊契約を解除する場合、約款・宿泊プランに従い取消料が発生することがある。
4. 宿泊施設では予約内容・本人確認・到着時刻などの確認が重要となる。

答え・解説

正答：2. 遅延時は旅行業者が常に全損害を無条件補償する。

解説：誤りは「遅延時は旅行業者が常に全損害を無条件補償する。」。運送機関の遅延では「遅延・欠航時の取扱いは、各運送約款や運送機関の案内に従って確認する。」が基本です。

要点：運送機関の遅延

Q072

TRAVEL-0472

宿泊契約の成立 / 4択 / 応用

次の事例で、宿泊契約の成立の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 宿泊施設が申込みを承諾したときに宿泊契約が成立する扱いが基本である。
2. 旅行者がパンフレットを見ただけで成立する。
3. 航空会社が承諾したときに必ず成立する。
4. 宿泊後に初めて成立する。

答え・解説

正答：1. 宿泊施設が申込みを承諾したときに宿泊契約が成立する扱いが基本である。

解説：宿泊契約の成立では「宿泊施設が申込みを承諾したときに宿泊契約が成立する扱いが基本である。」が基本です。

要点：宿泊契約の成立

Q073

TRAVEL-0473

宿泊の取消料 / 4択 / 基礎

宿泊の取消料に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 宿泊取消料は旅券発給手数料である。
2. 取消料は旅行者が自由に決める。
3. 宿泊契約を解除する場合、約款・宿泊プランに従い取消料が発生することがある。
4. 宿泊取消料は常に発生しない。

答え・解説

正答：3. 宿泊契約を解除する場合、約款・宿泊プランに従い取消料が発生することがある。

解説：宿泊の取消料では「宿泊契約を解除する場合、約款・宿泊プランに従い取消料が発生することがある。」が基本です。

要点：宿泊の取消料

Q074

TRAVEL-0474

チェックイン / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、チェックインで正しい理解はどれか。

1. 宿泊施設では到着確認が一切不要である。
2. チェックイン後は約款が適用されない。
3. チェックインは航空機の搭乗手続だけを意味する。
4. 宿泊施設では予約内容・本人確認・到着時刻などの確認が重要となる。

答え・解説

正答：4. 宿泊施設では予約内容・本人確認・到着時刻などの確認が重要となる。

解説：チェックインでは「宿泊施設では予約内容・本人確認・到着時刻などの確認が重要となる。」が基本です。

要点：チェックイン

Q075

TRAVEL-0475

宿泊施設の利用規則 / 4択 / 標準

宿泊施設の利用規則に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 旅客が区間に応じて鉄道を利用するための基本的な券である。
2. 宿泊施設と宿泊客との宿泊契約の条件を定める。
3. 宿泊客は施設の利用規則に従う必要がない。
4. 宿泊客は施設の利用規則や安全上の指示に従う必要がある。

答え・解説

正答：3. 宿泊客は施設の利用規則に従う必要がない。

解説：誤りは「宿泊客は施設の利用規則に従う必要がない。」。宿泊施設の利用規則では「宿泊客は施設の利用規則や安全上の指示に従う必要がある。」が基本です。

要点：宿泊施設の利用規則

Q076

TRAVEL-0476

運送約款の役割 / 4択 / 応用

次の事例で、運送約款の役割の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 旅券の発給条件を定める。
2. 運送人と旅客との運送契約の条件を定める。
3. 旅行業者の登録区分だけを定める。
4. ホテルの建築基準を定める。

答え・解説

正答：2. 運送人と旅客との運送契約の条件を定める。

解説：運送約款の役割では「運送人と旅客との運送契約の条件を定める。」が基本です。

要点：運送約款の役割

Q077

TRAVEL-0477

宿泊約款の役割 / 4択 / 基礎

宿泊約款の役割に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 宿泊施設と宿泊客との宿泊契約の条件を定める。
2. 旅程保証の変更補償金だけを定める。
3. 航空券の運賃計算だけを定める。
4. 旅行業登録の有効期間を定める。

答え・解説

正答：1. 宿泊施設と宿泊客との宿泊契約の条件を定める。

解説：宿泊約款の役割では「宿泊施設と宿泊客との宿泊契約の条件を定める。」が基本です。

要点：宿泊約款の役割

Q078

TRAVEL-0478

JR乗車券 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、JR乗車券で正しい理解はどれか。

1. 旅客が区間に応じて鉄道を利用するための基本的な券である。
2. 宿泊契約の証明書である。
3. 特急列車に乗るための追加料金券だけを指す。
4. 旅券の代替書類である。

答え・解説

正答：1. 旅客が区間に応じて鉄道を利用するための基本的な券である。

解説：JR乗車券では「旅客が区間に応じて鉄道を利用するための基本的な券である。」が基本です。

要点：JR乗車券

Q079

TRAVEL-0479

特急券 / 4択 / 標準

特急券に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 航空券は旅客名義で発券され、原則として他人へ譲渡できない。
2. 特急列車等の速達サービス・設備利用に対する料金券である。
3. 鉄道などでは小児運賃・料金が大人の半額相当となる扱いが基本である。
4. 普通列車の基本運賃だけを示す。

答え・解説

正答：4. 普通列車の基本運賃だけを示す。

解説：誤りは「普通列車の基本運賃だけを示す。」。特急券では「特急列車等の速達サービス・設備利用に対する料金券である。」が基本です。

要点：特急券

Q080

TRAVEL-0480

座席指定 / 4択 / 応用

次の事例で、座席指定の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 指定席券があれば乗車券は常に不要である。
2. 指定席は宿泊予約と同じ制度である。
3. 自由席では座席番号が必ず指定される。
4. 指定席を利用するには、対象列車・区間・座席等が指定された券が必要となる。

答え・解説

正答：4. 指定席を利用するには、対象列車・区間・座席等が指定された券が必要となる。

解説：座席指定では「指定席を利用するには、対象列車・区間・座席等が指定された券が必要となる。」が基本です。

要点：座席指定

Q081

TRAVEL-0481

小児運賃 / 4択 / 基礎

小児運賃に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 鉄道などでは小児運賃・料金が大人の半額相当となる扱いが基本である。
2. 小児運賃は大人の2倍である。
3. 小児は常に無料である。
4. 小児運賃は海外旅行にしか存在しない。

答え・解説

正答：1. 鉄道などでは小児運賃・料金が大人の半額相当となる扱いが基本である。

解説：小児運賃では「鉄道などでは小児運賃・料金が大人の半額相当となる扱いが基本である。」が基本です。

要点：小児運賃

Q082

TRAVEL-0482

航空券の名義 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、航空券の名義で正しい理解はどれか。

1. 航空券の氏名は宿泊施設が自由に変更できる。
2. 航空券は旅客名義で発券され、原則として他人へ譲渡できない。
3. 航空券は旅行者の名義だけで発券する。
4. 航空券は無記名で自由に譲渡できる。

答え・解説

正答：2. 航空券は旅客名義で発券され、原則として他人へ譲渡できない。

解説：航空券の名義では「航空券は旅客名義で発券され、原則として他人へ譲渡できない。」が基本です。

要点：航空券の名義

Q083

TRAVEL-0483

国内航空運送約款 / 4択 / 標準

国内航空運送約款に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 旅券の申請書式を定める。
2. 航空機や鉄道では安全上、危険物の持込みに制限がある。
3. 遅延・欠航時の取扱いは、各運送約款や運送機関の案内に従って確認する。
4. 航空会社と旅客との国内航空運送契約の基本条件を定める。

答え・解説

正答：1. 旅券の申請書式を定める。

解説：誤りは「旅券の申請書式を定める。」。国内航空運送約款では「航空会社と旅客との国内航空運送契約の基本条件を定める。」が基本です。

要点：国内航空運送約款

Q084

TRAVEL-0484

手荷物 / 4択 / 応用

次の事例で、手荷物の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 手荷物はどの交通機関でも無制限に持ち込める。
2. 危険物でも旅客が希望すれば必ず持ち込める。
3. 運送機関ごとに無料手荷物許容量や持込制限が定められる。
4. 手荷物規定は旅行業法上存在しない。

答え・解説

正答：3. 運送機関ごとに無料手荷物許容量や持込制限が定められる。

解説：手荷物では「運送機関ごとに無料手荷物許容量や持込制限が定められる。」が基本です。

要点：手荷物

Q085

TRAVEL-0485

危険物の持込み / 4択 / 基礎

危険物の持込みに関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 航空機や鉄道では安全上、危険物の持込みに制限がある。
2. 危険物は旅行者の自己責任で自由に持ち込める。
3. 国内旅行では危険物規制はない。
4. 危険物制限は宿泊約款だけの問題である。

答え・解説

正答：1. 航空機や鉄道では安全上、危険物の持込みに制限がある。

解説：危険物の持込みでは「航空機や鉄道では安全上、危険物の持込みに制限がある。」が基本です。

要点：危険物の持込み

Q086

TRAVEL-0486

運送機関の遅延 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、運送機関の遅延で正しい理解はどれか。

1. 遅延時は旅行業者が常に全損害を無条件補償する。
2. 遅延は約款では一切扱われない。
3. 遅延・欠航時の取扱いは、各運送約款や運送機関の案内に従って確認する。
4. 遅延時の取扱いは旅行者が自作できる。

答え・解説

正答：3. 遅延・欠航時の取扱いは、各運送約款や運送機関の案内に従って確認する。

解説：運送機関の遅延では「遅延・欠航時の取扱いは、各運送約款や運送機関の案内に従って確認する。」が基本です。

要点：運送機関の遅延

Q087

TRAVEL-0487

宿泊契約の成立 / 4択 / 標準

宿泊契約の成立に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 旅行者がパンフレットを見ただけで成立する。
2. 宿泊施設が申込みを承諾したときに宿泊契約が成立する扱いが基本である。
3. 宿泊施設では予約内容・本人確認・到着時刻などの確認が重要となる。
4. 宿泊客は施設の利用規則や安全上の指示に従う必要がある。

答え・解説

正答：1. 旅行者がパンフレットを見ただけで成立する。

解説：誤りは「旅行者がパンフレットを見ただけで成立する。」。宿泊契約の成立では「宿泊施設が申込みを承諾したときに宿泊契約が成立する扱いが基本である。」が基本です。

要点：宿泊契約の成立

Q088

TRAVEL-0488

宿泊の取消料 / 4択 / 応用

次の事例で、宿泊の取消料の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 取消料は旅行者が自由に決める。
2. 宿泊取消料は旅券発給手数料である。
3. 宿泊取消料は常に発生しない。
4. 宿泊契約を解除する場合、約款・宿泊プランに従い取消料が発生することがある。

答え・解説

正答：4. 宿泊契約を解除する場合、約款・宿泊プランに従い取消料が発生することがある。

解説：宿泊の取消料では「宿泊契約を解除する場合、約款・宿泊プランに従い取消料が発生することがある。」が基本です。

要点：宿泊の取消料

Q089

TRAVEL-0489

チェックイン / 4択 / 基礎

チェックインに関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 宿泊施設では到着確認が一切不要である。
2. チェックイン後は約款が適用されない。
3. 宿泊施設では予約内容・本人確認・到着時刻などの確認が重要となる。
4. チェックインは航空機の搭乗手続だけを意味する。

答え・解説

正答：3. 宿泊施設では予約内容・本人確認・到着時刻などの確認が重要となる。

解説：チェックインでは「宿泊施設では予約内容・本人確認・到着時刻などの確認が重要となる。」が基本です。

要点：チェックイン

Q090

TRAVEL-0490

宿泊施設の利用規則 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、宿泊施設の利用規則で正しい理解はどれか。

1. 宿泊客は施設の規則に従う必要がない。
2. 利用規則は従業員だけに適用される。
3. 宿泊客は施設の利用規則や安全上の指示に従う必要がある。
4. 旅行者が独自に規則を変更できる。

答え・解説

正答：3. 宿泊客は施設の利用規則や安全上の指示に従う必要がある。

解説：宿泊施設の利用規則では「宿泊客は施設の利用規則や安全上の指示に従う必要がある。」が基本です。

要点：宿泊施設の利用規則

Q091

TRAVEL-0491

運送約款の役割 / 4択 / 標準

運送約款の役割に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 特急列車等の速達サービス・設備利用に対する料金券である。
2. 旅客が区間に応じて鉄道を利用するための基本的な券である。
3. 旅行業者の登録区分だけを定める。
4. 運送人と旅客との運送契約の条件を定める。

答え・解説

正答：3. 旅行業者の登録区分だけを定める。

解説：誤りは「旅行業者の登録区分だけを定める。」。運送約款の役割では「運送人と旅客との運送契約の条件を定める。」が基本です。

要点：運送約款の役割

Q092

TRAVEL-0492

宿泊約款の役割 / 4択 / 応用

次の事例で、宿泊約款の役割の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 航空券の運賃計算だけを定める。
2. 旅程保証の変更補償金だけを定める。
3. 宿泊施設と宿泊客との宿泊契約の条件を定める。
4. 旅行業登録の有効期間を定める。

答え・解説

正答：3. 宿泊施設と宿泊客との宿泊契約の条件を定める。

解説：宿泊約款の役割では「宿泊施設と宿泊客との宿泊契約の条件を定める。」が基本です。

要点：宿泊約款の役割

Q093

TRAVEL-0493

JR乗車券 / 4択 / 基礎

JR乗車券に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 特急列車に乗るための追加料金券だけを指す。
2. 旅客が区間に応じて鉄道を利用するための基本的な券である。
3. 旅券の代替書類である。
4. 宿泊契約の証明書である。

答え・解説

正答：2. 旅客が区間に応じて鉄道を利用するための基本的な券である。

解説：JR乗車券では「旅客が区間に応じて鉄道を利用するための基本的な券である。」が基本です。

要点：JR乗車券

Q094

TRAVEL-0494

特急券 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、特急券で正しい理解はどれか。

1. 普通列車の基本運賃だけを示す。
2. 宿泊税を納める券である。
3. 特急列車等の速達サービス・設備利用に対する料金券である。
4. 海外旅行保険の証券である。

答え・解説

正答：3. 特急列車等の速達サービス・設備利用に対する料金券である。

解説：特急券では「特急列車等の速達サービス・設備利用に対する料金券である。」が基本です。

要点：特急券

Q095

TRAVEL-0495

座席指定 / 4択 / 標準

座席指定に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 航空会社と旅客との国内航空運送契約の基本条件を定める。
2. 自由席では座席番号が必ず指定される。
3. 航空券は旅客名義で発券され、原則として他人へ譲渡できない。
4. 指定席を利用するには、対象列車・区間・座席等が指定された券が必要となる。

答え・解説

正答：2. 自由席では座席番号が必ず指定される。

解説：誤りは「自由席では座席番号が必ず指定される。」。座席指定では「指定席を利用するには、対象列車・区間・座席等が指定された券が必要となる。」が基本です。

要点：座席指定

Q096

TRAVEL-0496

小児運賃 / 4択 / 応用

次の事例で、小児運賃の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 小児運賃は大人の2倍である。
2. 小児は常に無料である。
3. 鉄道などでは小児運賃・料金が大人の半額相当となる扱いが基本である。
4. 小児運賃は海外旅行にしか存在しない。

答え・解説

正答：3. 鉄道などでは小児運賃・料金が大人の半額相当となる扱いが基本である。

解説：小児運賃では「鉄道などでは小児運賃・料金が大人の半額相当となる扱いが基本である。」が基本です。

要点：小児運賃

Q097

TRAVEL-0497

航空券の名義 / 4択 / 基礎

航空券の名義に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 航空券は無記名で自由に譲渡できる。
2. 航空券は旅客名義で発券され、原則として他人へ譲渡できない。
3. 航空券は旅行者の名義だけで発券する。
4. 航空券の氏名は宿泊施設が自由に変更できる。

答え・解説

正答：2. 航空券は旅客名義で発券され、原則として他人へ譲渡できない。

解説：航空券の名義では「航空券は旅客名義で発券され、原則として他人へ譲渡できない。」が基本です。

要点：航空券の名義

Q098

TRAVEL-0498

国内航空運送約款 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、国内航空運送約款で正しい理解はどれか。

1. 航空会社と旅客との国内航空運送契約の基本条件を定める。
2. 旅券の申請書式を定める。
3. ホテルの宿泊料金を定める。
4. 旅行者の営業保証金額だけを定める。

答え・解説

正答：1. 航空会社と旅客との国内航空運送契約の基本条件を定める。

解説：国内航空運送約款では「航空会社と旅客との国内航空運送契約の基本条件を定める。」が基本です。

要点：国内航空運送約款

Q099

TRAVEL-0499

手荷物 / 4択 / 標準

手荷物に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 運送機関ごとに無料手荷物許容量や持込制限が定められる。
2. 遅延・欠航時の取扱い、各運送約款や運送機関の案内に従って確認する。
3. 手荷物はどの交通機関でも無制限に持ち込める。
4. 宿泊施設が申込みを承諾したときに宿泊契約が成立する扱いが基本である。

答え・解説

正答：3. 手荷物はどの交通機関でも無制限に持ち込める。

解説：誤りは「手荷物はどの交通機関でも無制限に持ち込める。」。手荷物では「運送機関ごとに無料手荷物許容量や持込制限が定められる。」が基本です。

要点：手荷物

Q100

TRAVEL-0500

危険物の持込み / 4択 / 応用

次の事例で、危険物の持込みの観点から最も適切な対応はどれか。（確認2）

1. 国内旅行では危険物規制はない。
2. 航空機や鉄道では安全上、危険物の持込みに制限がある。
3. 危険物は旅行者の自己責任で自由に持ち込める。
4. 危険物制限は宿泊約款だけの問題である。

答え・解説

正答：2. 航空機や鉄道では安全上、危険物の持込みに制限がある。

解説：危険物の持込みでは「航空機や鉄道では安全上、危険物の持込みに制限がある。」が基本です。

要点：危険物の持込み

Q101

TRAVEL-0501

運送機関の遅延 / 4択 / 基礎

運送機関の遅延に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 遅延・欠航時の取扱いは、各運送約款や運送機関の案内に従って確認する。
2. 遅延時は旅行業者が常に全損害を無条件補償する。
3. 遅延は約款では一切扱われない。
4. 遅延時の取扱いは旅行者が自作できる。

答え・解説

正答：1. 遅延・欠航時の取扱いは、各運送約款や運送機関の案内に従って確認する。

解説：運送機関の遅延では「遅延・欠航時の取扱いは、各運送約款や運送機関の案内に従って確認する。」が基本です。

要点：運送機関の遅延

Q102

TRAVEL-0502

宿泊契約の成立 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、宿泊契約の成立で正しい理解はどれか。

1. 宿泊施設が申込みを承諾したときに宿泊契約が成立する扱いが基本である。
2. 宿泊後に初めて成立する。
3. 旅行者がパンフレットを見ただけで成立する。
4. 航空会社が承諾したときに必ず成立する。

答え・解説

正答：1. 宿泊施設が申込みを承諾したときに宿泊契約が成立する扱いが基本である。

解説：宿泊契約の成立では「宿泊施設が申込みを承諾したときに宿泊契約が成立する扱いが基本である。」が基本です。

要点：宿泊契約の成立

Q103

TRAVEL-0503

宿泊の取消料 / 4択 / 標準

宿泊の取消料に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 宿泊契約を解除する場合、約款・宿泊プランに従い取消料が発生することがある。
2. 宿泊客は施設の利用規則や安全上の指示に従う必要がある。
3. 宿泊取消料は常に発生しない。
4. 運送人と旅客との運送契約の条件を定める。

答え・解説

正答：3. 宿泊取消料は常に発生しない。

解説：誤りは「宿泊取消料は常に発生しない。」。宿泊の取消料では「宿泊契約を解除する場合、約款・宿泊プランに従い取消料が発生することがある。」が基本です。

要点：宿泊の取消料

Q104

TRAVEL-0504

チェックイン / 4択 / 応用

次の事例で、チェックインの観点から最も適切な対応はどれか。

1. 宿泊施設では到着確認が一切不要である。
2. 宿泊施設では予約内容・本人確認・到着時刻などの確認が重要となる。
3. チェックイン後は約款が適用されない。
4. チェックインは航空機の搭乗手続だけを意味する。

答え・解説

正答：2. 宿泊施設では予約内容・本人確認・到着時刻などの確認が重要となる。

解説：チェックインでは「宿泊施設では予約内容・本人確認・到着時刻などの確認が重要となる。」が基本です。

要点：チェックイン

Q105

TRAVEL-0505

宿泊施設の利用規則 / 4択 / 基礎

宿泊施設の利用規則に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 利用規則は従業員だけに適用される。
2. 宿泊客は施設の利用規則や安全上の指示に従う必要がある。
3. 宿泊客は施設の規則に従う必要がない。
4. 旅行者が独自に規則を変更できる。

答え・解説

正答：2. 宿泊客は施設の利用規則や安全上の指示に従う必要がある。

解説：宿泊施設の利用規則では「宿泊客は施設の利用規則や安全上の指示に従う必要がある。」が基本です。

要点：宿泊施設の利用規則

Q106

TRAVEL-0506

運送約款の役割 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、運送約款の役割で正しい理解はどれか。

1. 旅券の発給条件を定める。
2. ホテルの建築基準を定める。
3. 旅行業者の登録区分だけを定める。
4. 運送人と旅客との運送契約の条件を定める。

答え・解説

正答：4. 運送人と旅客との運送契約の条件を定める。

解説：運送約款の役割では「運送人と旅客との運送契約の条件を定める。」が基本です。

要点：運送約款の役割

Q107

TRAVEL-0507

宿泊約款の役割 / 4択 / 標準

宿泊約款の役割に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 航空券の運賃計算だけを定める。
2. 特急列車等の速達サービス・設備利用に対する料金券である。
3. 指定席を利用するには、対象列車・区間・座席等が指定された券が必要となる。
4. 宿泊施設と宿泊客との宿泊契約の条件を定める。

答え・解説

正答：1. 航空券の運賃計算だけを定める。

解説：誤りは「航空券の運賃計算だけを定める。」。宿泊約款の役割では「宿泊施設と宿泊客との宿泊契約の条件を定める。」が基本です。

要点：宿泊約款の役割

Q108

TRAVEL-0508

JR乗車券 / 4択 / 応用

次の事例で、JR乗車券の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 宿泊契約の証明書である。
2. 旅客が区間に応じて鉄道を利用するための基本的な券である。
3. 旅券の代替書類である。
4. 特急列車に乗るための追加料金券だけを指す。

答え・解説

正答：2. 旅客が区間に応じて鉄道を利用するための基本的な券である。

解説：JR乗車券では「旅客が区間に応じて鉄道を利用するための基本的な券である。」が基本です。

要点：JR乗車券

Q109

TRAVEL-0509

特急券 / 4択 / 基礎

特急券に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 特急列車等の速達サービス・設備利用に対する料金券である。
2. 宿泊税を納める券である。
3. 海外旅行保険の証券である。
4. 普通列車の基本運賃だけを示す。

答え・解説

正答：1. 特急列車等の速達サービス・設備利用に対する料金券である。

解説：特急券では「特急列車等の速達サービス・設備利用に対する料金券である。」が基本です。

要点：特急券

Q110

TRAVEL-0510

座席指定 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、座席指定で正しい理解はどれか。

1. 指定席券があれば乗車券は常に不要である。
2. 指定席は宿泊予約と同じ制度である。
3. 自由席では座席番号が必ず指定される。
4. 指定席を利用するには、対象列車・区間・座席等が指定された券が必要となる。

答え・解説

正答：4. 指定席を利用するには、対象列車・区間・座席等が指定された券が必要となる。

解説：座席指定では「指定席を利用するには、対象列車・区間・座席等が指定された券が必要となる。」が基本です。

要点：座席指定

Q111

TRAVEL-0511

小児運賃 / 4択 / 標準

小児運賃に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 小児は常に無料である。
2. 鉄道などでは小児運賃・料金が大人の半額相当となる扱いが基本である。
3. 航空会社と旅客との国内航空運送契約の基本条件を定める。
4. 運送機関ごとに無料手荷物許容量や持込制限が定められる。

答え・解説

正答：1. 小児は常に無料である。

解説：誤りは「小児は常に無料である。」。小児運賃では「鉄道などでは小児運賃・料金が大人の半額相当となる扱いが基本である。」が基本です。

要点：小児運賃

Q112

TRAVEL-0512

航空券の名義 / 4択 / 応用

次の事例で、航空券の名義の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 航空券の氏名は宿泊施設が自由に変更できる。
2. 航空券は旅客名義で発券され、原則として他人へ譲渡できない。
3. 航空券は旅行者の名義だけで発券する。
4. 航空券は無記名で自由に譲渡できる。

答え・解説

正答：2. 航空券は旅客名義で発券され、原則として他人へ譲渡できない。

解説：航空券の名義では「航空券は旅客名義で発券され、原則として他人へ譲渡できない。」が基本です。

要点：航空券の名義

Q113

TRAVEL-0513

国内航空運送約款 / 4択 / 基礎

国内航空運送約款に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 旅券の申請書式を定める。
2. 旅行者の営業保証金額だけを定める。
3. 航空会社と旅客との国内航空運送契約の基本条件を定める。
4. ホテルの宿泊料金を定める。

答え・解説

正答：3. 航空会社と旅客との国内航空運送契約の基本条件を定める。

解説：国内航空運送約款では「航空会社と旅客との国内航空運送契約の基本条件を定める。」が基本です。

要点：国内航空運送約款

Q114

TRAVEL-0514

手荷物 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、手荷物で正しい理解はどれか。
(確認2)

1. 手荷物規定は旅行業法上存在しない。
2. 手荷物はどの交通機関でも無制限に持ち込める。
3. 運送機関ごとに無料手荷物許容量や持込制限が定められる。
4. 危険物でも旅客が希望すれば必ず持ち込める。

答え・解説

正答：3. 運送機関ごとに無料手荷物許容量や持込制限が定められる。

解説：手荷物では「運送機関ごとに無料手荷物許容量や持込制限が定められる。」が基本です。

要点：手荷物

Q115

TRAVEL-0515

危険物の持込み / 4択 / 標準

危険物の持込みに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。
(確認2)

1. 宿泊契約を解除する場合、約款・宿泊プランに従い取消料が発生することがある。
2. 宿泊施設が申込みを承諾したときに宿泊契約が成立する扱いが基本である。
3. 危険物は旅行者の自己責任で自由に持ち込める。
4. 航空機や鉄道では安全上、危険物の持込みに制限がある。

答え・解説

正答：3. 危険物は旅行者の自己責任で自由に持ち込める。

解説：誤りは「危険物は旅行者の自己責任で自由に持ち込める。」。危険物の持込みでは「航空機や鉄道では安全上、危険物の持込みに制限がある。」が基本です。

要点：危険物の持込み

Q116

TRAVEL-0516

運送機関の遅延 / 4択 / 応用

次の事例で、運送機関の遅延の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 遅延は約款では一切扱われない。
2. 遅延・欠航時の取扱いは、各運送約款や運送機関の案内に従って確認する。
3. 遅延時は旅行業者が常に全損害を無条件補償する。
4. 遅延時の取扱いは旅行者が自作できる。

答え・解説

正答：2. 遅延・欠航時の取扱いは、各運送約款や運送機関の案内に従って確認する。

解説：運送機関の遅延では「遅延・欠航時の取扱いは、各運送約款や運送機関の案内に従って確認する。」が基本です。

要点：運送機関の遅延

Q117

TRAVEL-0517

宿泊契約の成立 / 4択 / 基礎

宿泊契約の成立に関する記述として、最も適切なものはどれか。

1. 宿泊後に初めて成立する。
2. 宿泊施設が申込みを承諾したときに宿泊契約が成立する扱いが基本である。
3. 旅行者がパンフレットを見ただけで成立する。
4. 航空会社が承諾したときに必ず成立する。

答え・解説

正答：2. 宿泊施設が申込みを承諾したときに宿泊契約が成立する扱いが基本である。

解説：宿泊契約の成立では「宿泊施設が申込みを承諾したときに宿泊契約が成立する扱いが基本である。」が基本です。

要点：宿泊契約の成立

Q118

TRAVEL-0518

宿泊の取消料 / 4択 / 標準

旅行業務取扱管理者試験の学習上、宿泊の取消料で正しい理解はどれか。

1. 宿泊取消料は旅券発給手数料である。
2. 宿泊取消料は常に発生しない。
3. 取消料は旅行者が自由に決める。
4. 宿泊契約を解除する場合、約款・宿泊プランに従い取消料が発生することがある。

答え・解説

正答：4. 宿泊契約を解除する場合、約款・宿泊プランに従い取消料が発生することがある。

解説：宿泊の取消料では「宿泊契約を解除する場合、約款・宿泊プランに従い取消料が発生することがある。」が基本です。

要点：宿泊の取消料

Q119

TRAVEL-0519

チェックイン / 4択 / 標準

チェックインに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 運送人と旅客との運送契約の条件を定める。
2. 宿泊施設と宿泊客との宿泊契約の条件を定める。
3. チェックインは航空機の搭乗手続だけを意味する。
4. 宿泊施設では予約内容・本人確認・到着時刻などの確認が重要となる。

答え・解説

正答：3. チェックインは航空機の搭乗手続だけを意味する。

解説：誤りは「チェックインは航空機の搭乗手続だけを意味する。」。チェックインでは「宿泊施設では予約内容・本人確認・到着時刻などの確認が重要となる。」が基本です。

要点：チェックイン

Q120

TRAVEL-0520

宿泊施設の利用規則 / 4択 / 応用

次の事例で、宿泊施設の利用規則の観点から最も適切な対応はどれか。

1. 利用規則は従業員だけに適用される。
2. 旅行者が独自に規則を変更できる。
3. 宿泊客は施設の規則に従う必要がない。
4. 宿泊客は施設の利用規則や安全上の指示に従う必要がある。

答え・解説

正答：4. 宿泊客は施設の利用規則や安全上の指示に従う必要がある。

解説：宿泊施設の利用規則では「宿泊客は施設の利用規則や安全上の指示に従う必要がある。」が基本です。

要点：宿泊施設の利用規則